

2017年（平成29年）2月期 第1四半期 決算説明資料

古野電気株式会社

開示：2016年7月14日（木）

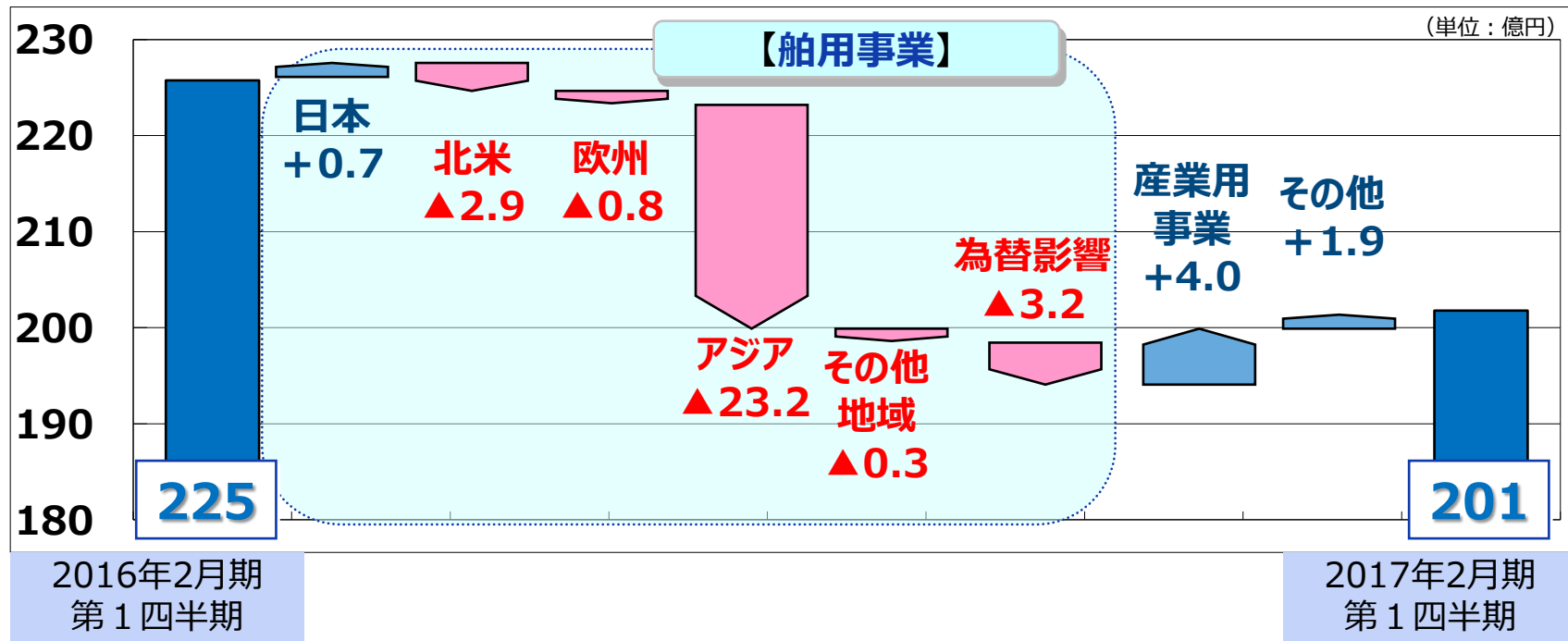


注意事項：

本資料に記載されている内容は、公表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣による将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのためさまざまな要素により、記載された見通しと異なる結果となり得ることをご承知おきください。

なお、当資料の数値表記は、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表に記載の金額は、表示単位未満を切り捨てて表示し、比率その他の数値は、四捨五入により表示しております。

(単位：百万円)	2016年2月期 第1四半期	2017年2月期 第1四半期	増減比（額）	増減比（率）
売上高	22,575	20,178	▲2,397	▲10.6%
売上総利益 (対売上高比率)	8,255 36.6%	7,125 35.3%	▲1,130 ▲1.3	▲13.7%
営業利益 (対売上高比率)	1,552 6.9%	894 4.4%	▲658 ▲2.4	▲42.4%
経常利益 (対売上高比率)	1,652 7.3%	670 3.3%	▲982 ▲4.0	▲59.4%
親会社株主に帰属 する四半期純利益 (対売上高比率)	1,377 6.1%	491 2.4%	▲886 ▲3.7	▲64.3%
研究開発費 (対売上高比率)	1,192 5.3%	943 4.7%	▲249 ▲0.6	▲20.9%
設備投資額 (対売上高比率)	767 3.4%	1,009 5.0%	+242 +1.6	+31.6%
減価償却費 (対売上高比率)	615 2.7%	629 3.1%	+14 +0.4	+2.3%
(単位：円、期中平均レート)				
為替（対ドル）	119	119	+0	+0.3%
為替（対ユーロ）	136	129	▲7	▲5.3%



◆ 船用事業 ▲29億円

- 為替影響 ▲3.2億円
- 日本：商船向けで増収
- 北米：その他除き減収
- 欧州：漁業向け・小型商品で増収
- アジア：全市場向けで減収

◆ 産業用事業 +4.0億円

- ヘルスケア事業で増収
- 通信・GNSSソリューション事業で増収

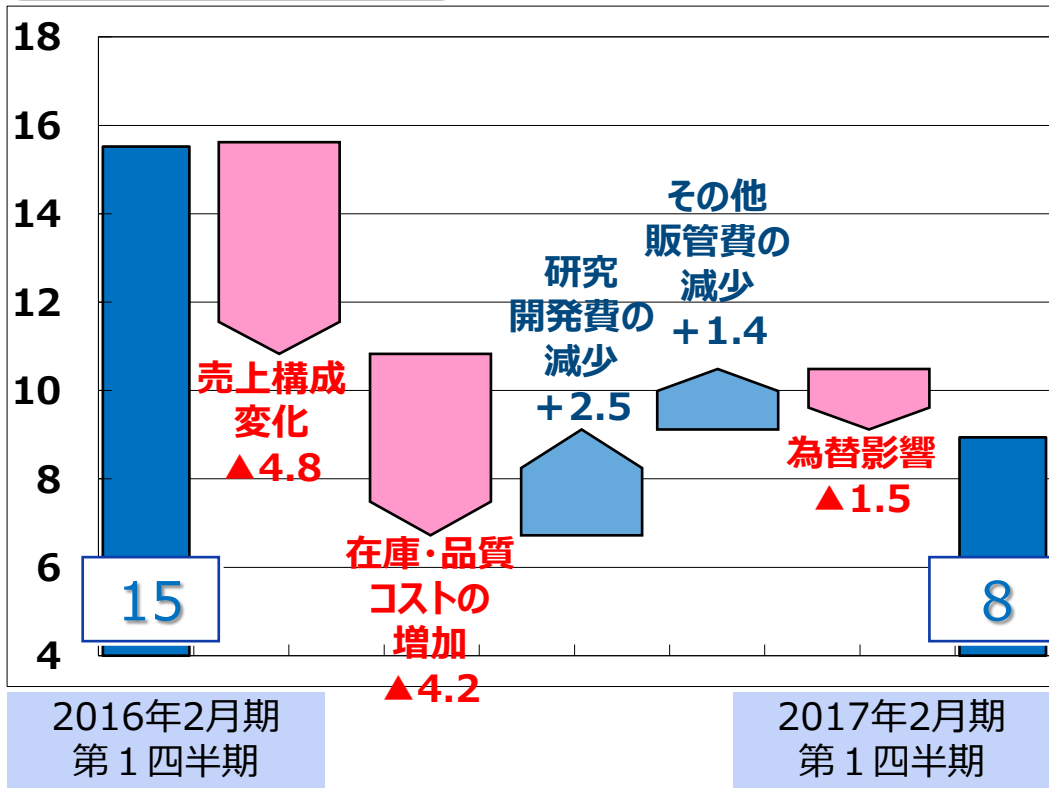
◆ その他 +1.9億円

- 無線LANアクセスポイントが好調

※ 為替感応度 (2016年2月期実績値)
 【ドル】売上高1.5億円、営業利益0.5億円
 【ユーロ】売上高1.4億円、営業利益0.6億円

営業利益の増減分析

(単位：億円)



◆ 営業利益 ▲6.6億円

【改善】 +3.9億円

【悪化】 ▲10.5億円

◆ 経常利益 ▲9.8億円

営業外収益 +0.1億円

営業外費用 +3.4億円

▶ 前期：為替差損 0.4億円

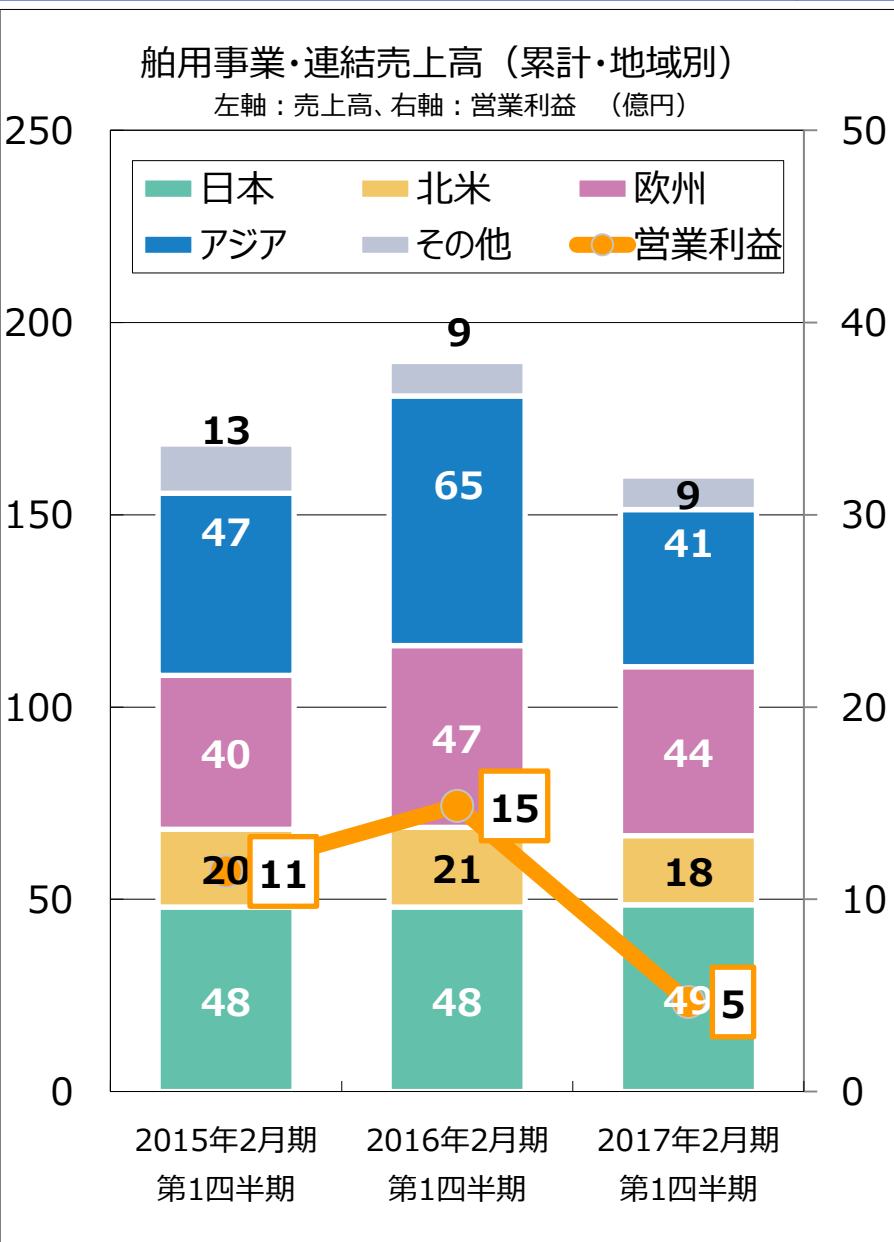
▶ 今期：為替差損 3.7億円

◆ 四半期純利益 ▲8.9億円

特別利益 +0.04億円

特別損失 +0.01億円

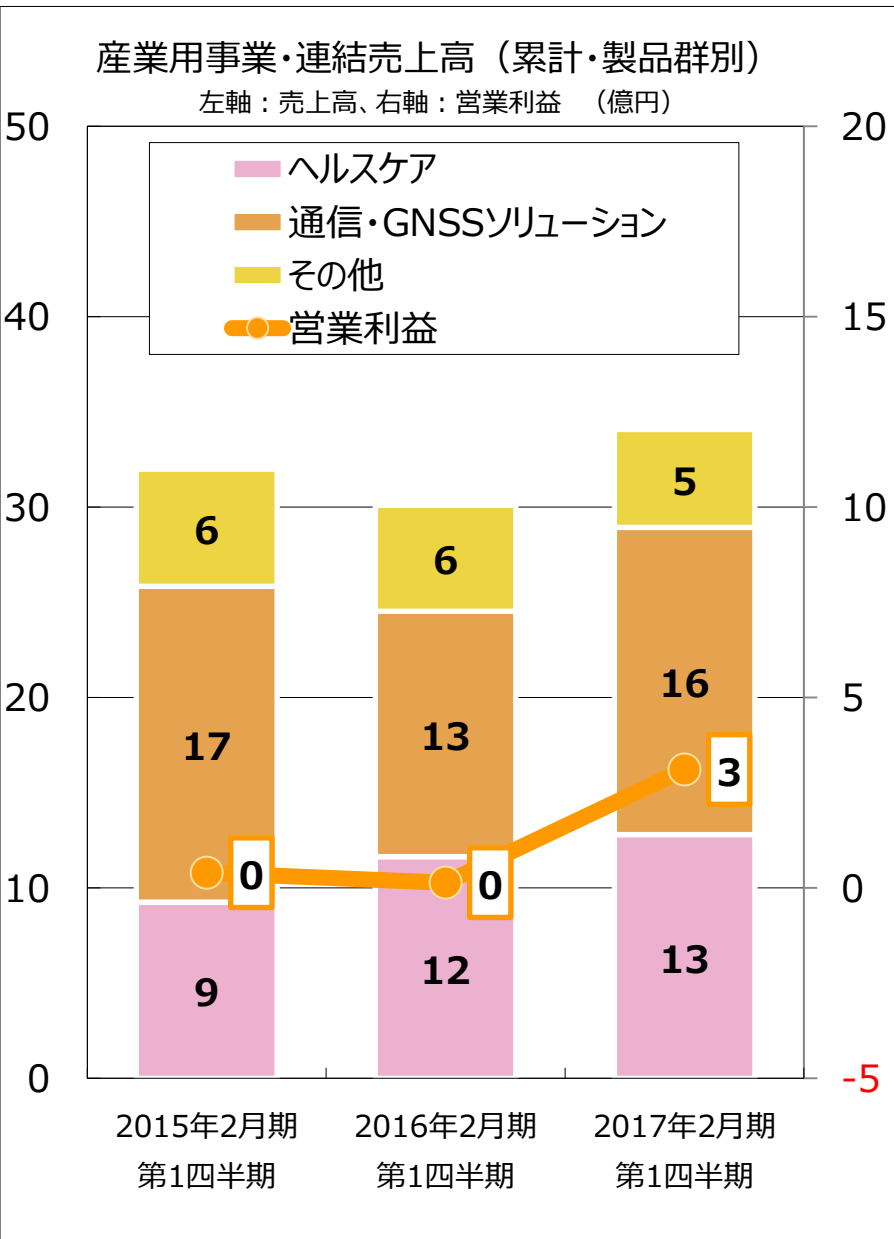
法人税等 ▲0.7億円



売上高 160億円（前年同期比 ▲15.7%）
セグメント損益 4.7億円（▲10億円）
日本を除く各地域で減収、為替影響で減益

- ◆日本：売上高 49億円（+1.3%）
 ▶ 増収継続、商船向け堅調。漁業向け減収
- ◆北米：売上高 18億円（▲13.8%）
 ▶ 3市場ともに減収に転じる
- ◆欧州：売上高 44億円（▲6.8%）
 ▶ 漁業向け、小型商品好調。商船向け減収
- ◆アジア：売上高 41億円（▲37.1%）
 ▶ 商船向け、漁業向けいずれも減収

※2017年2月期第1四半期決算説明資料から、「プレジャー向け」の表記を「小型商品」に変更しております。



売上高 34億円（前年同期比 +13.2%）

セグメント損益 3.1億円（+3.0億円）

ヘルスケア、通信・GNSSは増収

研究開発費の減少で利益改善

◆ヘルスケア事業：

売上高 12億円（+10.0%）

▶ 生化学自動分析装置が好調

◆通信・GNSSソリューション事業：

売上高 16億円（+25.1%）

▶ ETC車載器、周波数発生器が増収

◆その他：売上高 5.1億円（▲7.6%）

▶ 防衛省向け売上が減収

※2017年2月期第1四半期決算説明資料から、「医療機器」の表記を「ヘルスケア事業」に変更、「GPS機器」と「ITS機器」を「通信・GNSSソリューション事業」に統合しております。

ETC2.0サービスに対応したGPS発話型ETC2.0車載器 2機種を開発

- ◆今年4月から本格的に始まった「ETC2.0サービス」に対応した新型車載器です。
- ◆車載器単独で料金割引や渋滞回避情報、安全運転支援情報などの入手といった各種サービスを受けることができます。

ウェブサイト⇒ <http://www.furuno.com/jp/products/etc/>



新型のGNSS自動変位計測システム「DANA」（呼称：ダーナ、型式：MG-87）を開発

- ◆1997年から販売している「DANA」シリーズは、地盤（火山、地すべり、のり面など）や土木構造物（ダム、橋梁など）、人工構造物の建設工事時の変位計測などにおいて、GNSS搬送波の位相情報を用いた測位技術と独自の誤差解析処理により、mmオーダー精度で三次元変位計測を行います。
- ◆今回の新商品は、システム導入から運用までのトータルコストを大幅に低減、データ通信環境のワイヤレス化やソーラー電源標準装備などによって、緊急時にも即時に設置対応できるようになりました。



▲「DANA」の外観（左：GNSSセンサー、右：ソーラー電源）と観測イメージ

ウェブサイト⇒ <http://www.furuno.com/jp/systems/terrain-monitoring/>

2017年2月期 通期業績予想の修正

(単位：百万円)	前回予想 (2016年4月14日発表)		今回予想 (2016年7月14日発表)		増減額	増減率
	2016年2月期実績	2017年2月期予想	2017年2月期予想			
売上高	89,720	86,000	81,000	▲5,000	▲5.8%	
売上総利益 (対売上高比率)	29,634 33.0%	28,900 33.6%	26,400 32.6%	▲2,500 ▲1.0	▲8.7%	
営業利益 (対売上高比率)	2,911 3.2%	1,900 2.2%	900 1.1%	▲1,000 ▲1.1	▲52.6%	
経常利益 (対売上高比率)	3,362 3.7%	1,600 1.9%	400 0.5%	▲1,200 ▲1.4	▲75.0%	
親会社株主に帰属 する四半期純利益 (対売上高比率)	2,624 2.9%	1,100 1.3%	200 0.2%	▲900 ▲1.0	▲81.8%	
研究開発費 (対売上高比率)	4,787 5.3%	5,000 5.8%	4,700 5.8%	▲300 ▲0.0	▲6.0%	
設備投資額 (対売上高比率)	3,521 3.9%	3,500 4.1%	3,500 4.3%	0 +0.3	0.0%	
減価償却費 (対売上高比率)	2,721 3.0%	3,000 3.5%	3,000 3.7%	0 +0.2	0.0%	
(単位：円、期中平均レート)						
為替 (対ドル)	121	110	100	▲10	▲9.1%	
為替 (対ユーロ)	135	125	110	▲15	▲12.0%	

補足. フルノグループの事業概要

古野電気は1948年に世界で初めて魚群探知機の実用化に成功して以来、船用電子機器分野において、その独自の超音波技術と電子技術をもとに数々の世界初・日本初の商品を提供し続けてきました。そして今日、世界80カ国以上に販売拠点を有し、世界規模の船用電子機器総合メーカーとして確固たる地位とブランドを築いてきました。

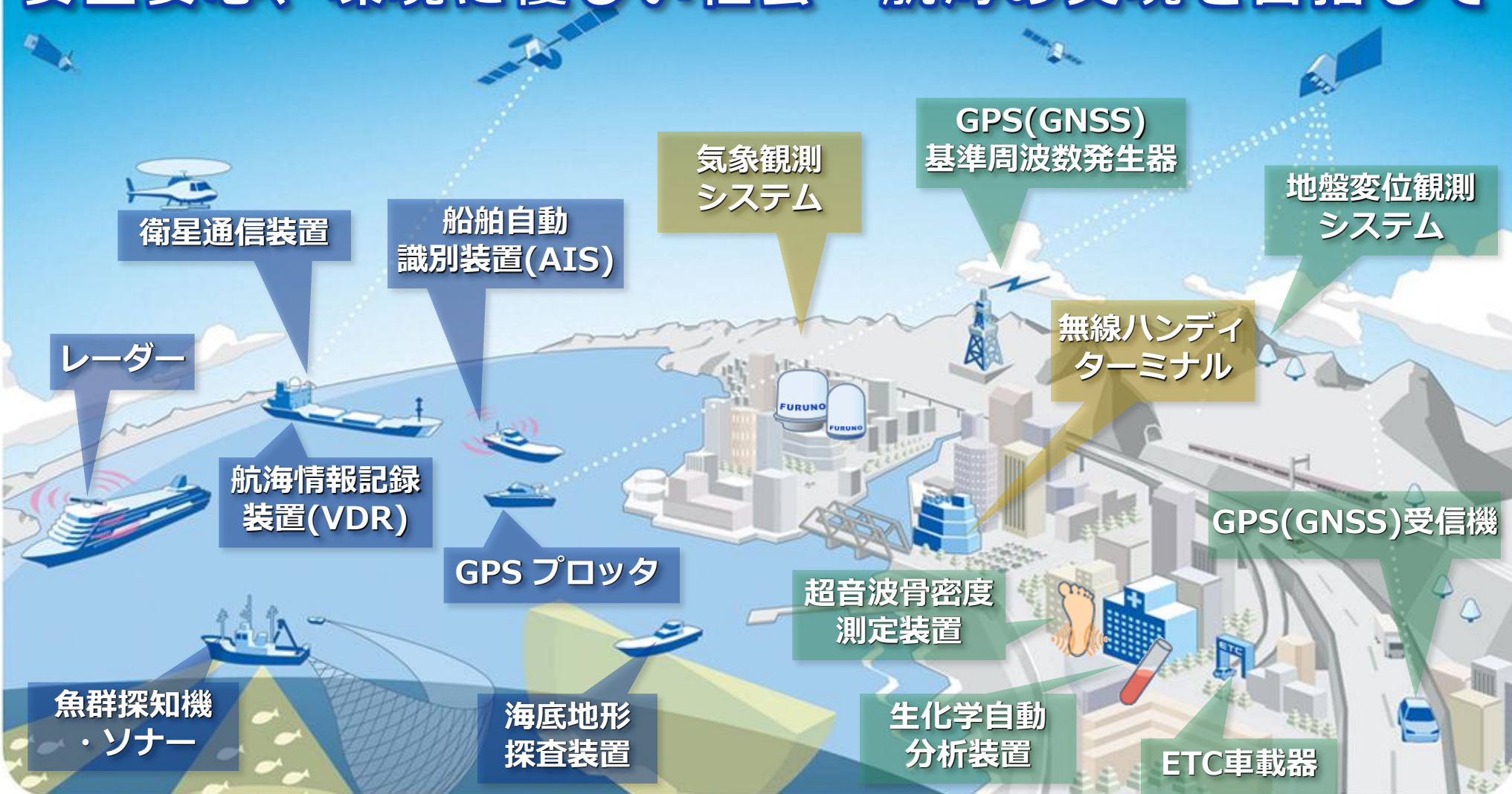
2016年2月29日現在



社名	古野電気株式会社
本社所在地	兵庫県西宮市
設立	1951年（昭和26年）
事業内容	船用電子機器および産業用電子機器などの製造・販売
資本金	7,534 百万円
代表者	古野 幸男
上場取引所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード：6814)

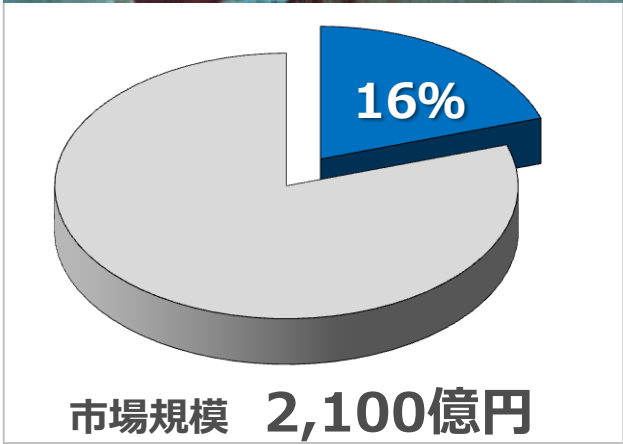
I R 情報サイト⇒ <http://www.furuno.co.jp/ir/>
製品情報サイト⇒ <http://www.furuno.com/>

安全安心、環境に優しい社会・航海の実現を目指して

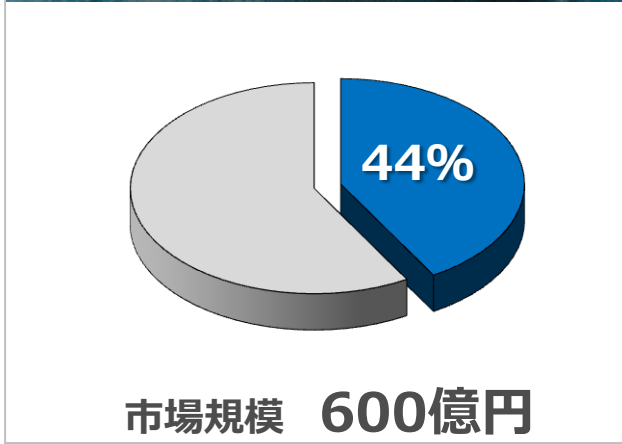


市場規模は、2015年の各社売上データに基づく当社推定による試算値

商船向け



漁業向け



総合船用電子機器メーカーとして、世界シェアトップ

(世界市場 4,500億円のうち、シェア16%占める)